

実践ちょっと見—10

「オンライン授業で通用した新しい授業方法—自学自習を評価する授業—」

発表者 清風情報工科学院

平岡憲人先生・平岡佳梨加先生

1. 概要

能力試験対策、就職に際してのコミュニケーション能力、就職後企業で通用する態度や心構えの育成が求められるコンピューター学科の2年目のクラスの学生たちに対し、オンラインやハイブリッド授業の中でもだらけずに自分で学習をコントロールして教育成果を出すという授業の実践報告。

2・実践内容と結果

対象：N3レベルの非漢字圏学習者11人

目標：N2合格と社会性あるコミュニケーション

①自学のPDCAサイクルを作るための勉強貯金

教室外で行う自学学習を見える化し、だらけなくするための計画シートとして、学習目標や日々の学習時間を項目別に行った「勉強貯金」を作成した。週1回提出させ、コメントを書いて返却した。結果、学習者は計画を立てる意味を学んだ。また期限を遵守することが習慣になった。自分の目標に向かって行動できるようになった。企業で通用する態度や心構えの育成に繋がったと思われる。

②マインド教育として、勉強に臨む態度やスキルアップ法についての唱和

感情を込めたりジェスチャー付きで表現するなどの方法で発表させ、マインドのアップと表現力の向上が図れた。

③ルーブリックを利用した、モチベーションアップの学習評価

総評は点数ではなく、励ましのコメントを入れた。自己評価項目だけでなく、発表に対する他者評価項目もあり、学習はだらけることができない仕組みにした。結果、クラスの和も強化された。

3. 今後の課題

ルーブリックを活用することと、初級への取り組み。

4. 所感

・研究大会2日目午前中の対談で、21世紀を生きのびるには社会の変化に対応できな

いといけない。そのためには学習者も変わらなければならず、自分の学習に責任を持つようにならなければいけない、という話があった。この実践報告にあった「勉強貯金」はそのような自分の学習に責任を持つ学習者を育成する一つの良いアイデアであると思う。

- ・結果として全員がN2に合格したということだが、単にJLPTの合格を目的としているのではなく、学習者が社会人となった時、将来社会に通用する生き方までも自学コントロールを習慣づけることにより身に着けさせているところが注目すべき点である。
- ・また、同じ対談の中で、モチベーションが高くイニシアティブがあれば、学習者はどんどん自分で学びを進める力ができてくるという話もあった。教師の役割として、そうした環境を整えることが重要になり、授業を教えたり、学習をサポートするという段階を超えて、学習者が自ら学ぶ環境づくりをデザインできる力が求められているのである。清風情報工科学院の報告は、まさにそれを試みた実践例であり、学ぶことが多い。

(阿字地道代)